

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

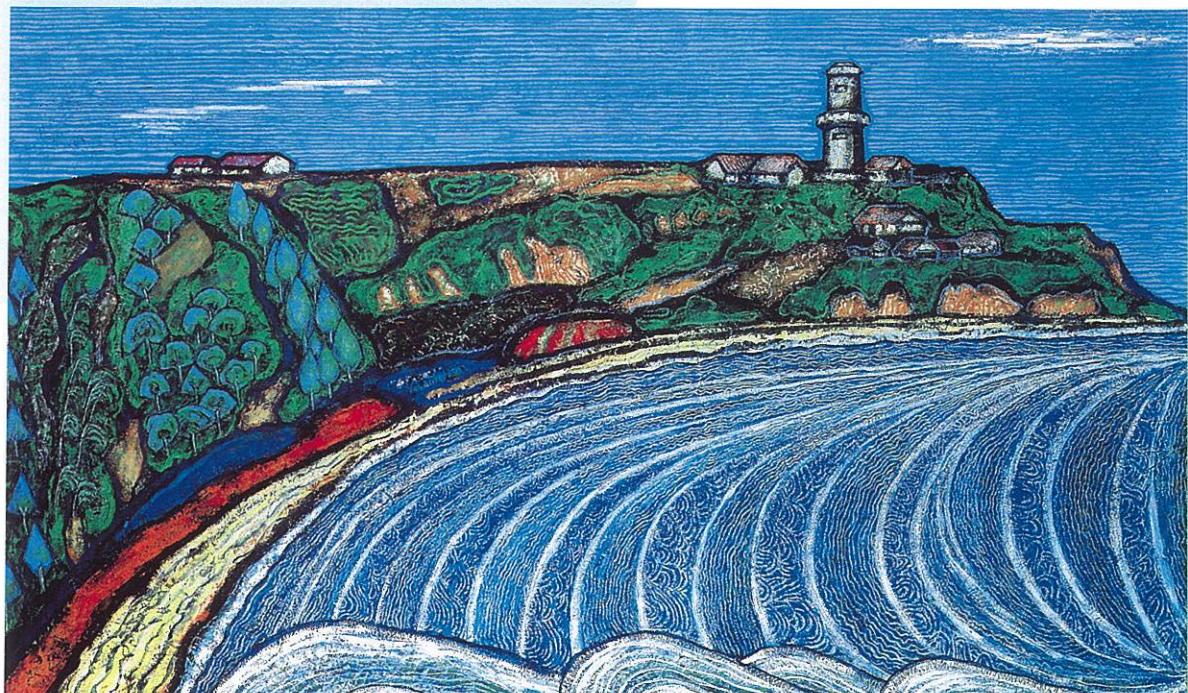
## COLLEGE REPORT



# 第31号

〈JULY 2002〉

発行/敬和学園大学広報委員会



### CLOSE UP

空を飛ぶ夢：

私がパラグライダーを操縦するまで

ジェームズ・ブラウン

### 新入生CLOSE UP

卒業生は今

#### 新任教員紹介

新入生オリエンテーション

オープンカレッジのご案内

教師教育実践交流ワークショップ

2001年度決算及び2002年度予算

2002年度後援会総会

就職指導室長就任

2003年度オープンキャンパス／入試のご案内

# 2002



今年度の入学式は、4月3日に新発田市民文化会館で行われました。写真は、敬和学園高等学校出身の国際文化学科 大須賀 悠さんが、新入生を代表して宣誓を行っているところです。

この宣誓は、「Mission (使命)」をキーワードとして、これからの大學生生活、ひいては自分たちの将来に対する決意が表されたものであり、感動深いものでした。

この入学式の宣誓は、敬和学園大学のホームページ (<http://www.keiwa-c.ac.jp/>) でいつでも見ることができます。みなさんも今年の新入生の意気込みを感じてください。

## もくじ

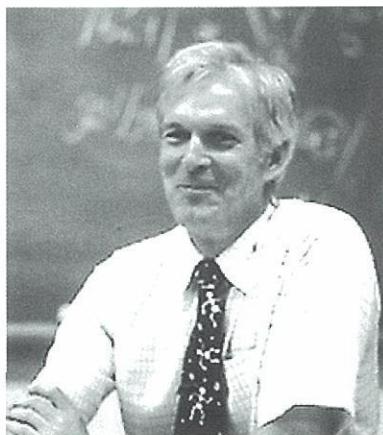
空を飛ぶ夢：	2001年度決算及び2002年度予算	10
私がパラグライダーを操縦するまで	2002年度後援会総会	11
ジェームズ・ブラウン	就職指導室長就任	12
新入生Close Up	学事予告・寄付者ご芳名	12
荒井美穂／鷲津肇	オープンキャンパスのご案内	13
卒業生は今	2003年度入試のご案内	13
近伸之／石木裕美		
新任教員紹介		
6		
新入生オリエンテーション		
8		
オープンカレッジのご案内		
8		
教師教育実践交流ワークショップのご案内		
9		
T・Aに参加して／2002年度教員採用実績		
9		

<表紙> 安藤 唯一「岬」

(安藤司文 本学教授 お父上 日曜画家 画集「表象を描く」から)

# 空を飛ぶ夢 私がパラグライダーを操縦するまで

教授 ジェームズ・ブラウン



人間と他の動物たちとの違いは何でしょ  
う。多くの人々は、人間が言語でコミュニケーションできる能力が、人間を他の種から分  
けるものだというでしょう。しかし、周知の  
ように、鯨は海の中でたいへんな距離を隔て  
て意思疎通することができます。また、鯨の  
「歌」は集団によつて違ひが見られ、それは  
方言だと考えられます。蜂は巣に入るときに  
「蜂のダンス」を踊つて情報を伝達すること  
も知られています。「ダンス」は他の蜂に蜜  
のある花への方角を示しているだけでなく、  
その花までの距離も示しています。我々人間  
のコミュニケーションは確かに複雑ですが、

他の動物たちのコミュニケーションについて  
もっと知らないと、言語が人間と他の動物を  
区別するとは言えません。

個体としてみると、人間と他の動物を区別  
する一つの特徴は、自分自身を別なものに変  
えていく能力でしょう。就職のときに親の言  
うことにしてみると、自分の

属する文化の慣習に従うことも、もし他の社  
会で暮らすようになれば、別にやらないでも  
いい。しかし、私の猫にはそのような選択肢  
はありません。猫は今は違った時間の過ご  
し方があるとは考えません。毎朝、我が家の一  
猫たちは、起きて、ご飯を食べて、あとは、  
我々人間たちが帰つてくるまで、ゴロ寝して  
います。猫は自分の生活習慣を疑問視したり、  
他の町を訪れたり、山に登つたりしたいとは  
思いません。ウチの猫たちは生き残りに関わ  
ることしかやりません。(我が家で「生き残  
り」なんて、あんまりやらないといけないけ  
ど) 別な生活があるなんて、考えつかない  
のでしょうか。

他方、人間は、自分が誰であるのか、どん  
な人間になりたいのかと考えますし、さらに、  
夢を実現できることがあります。夢を見て、  
つたり。

見た夢を実現できる能力こそが、人間を「人  
間」にしているのです。夢を持たない人や、  
夢があつても棚上げして、夢の実現のために  
行動を起こさない人は、人間が小さくなつて  
います。夢を現実のものとすることで、私た  
ちはよりよい人間になつていくのだと思いま  
す。

私は子供の頃、飛行機のパイロットになる  
のが夢でした。飛行機で空を飛ぶことより樂  
しくて面白いことはあるはずない、と思って  
いました。私は飛行機バカでした。自分の部  
屋の壁には飛行機の写真を貼つていました。  
飛行機の模型も作りました。プラモデルも作  
つたし、ゴムで飛ばせる飛行機も作つたし。  
五センチくらいしかない小さな模型飛行機も  
買いました。それらを部屋の天井から、空中  
戦をやつているような格好で、つるしました。  
雲の中を飛ぶつてどんなのだろう、と思いつ  
がら何時間も外で過ごしたこともあります。  
凧を大きくしたら自分の体を空に浮かすこと  
ができるだろうか、そしたら、凧が飛んでい  
るのを見上げるのではなくて、凧を操つてい  
る人を上から見下ろすことになるなあ、と思

## CLOSE UP

しかし、年齢が上がつてくると、「現実」がパイロットになりたいという私の「夢」に背が高くなりすぎたのです。軍隊での規定では、パイロット候補の身長を一九三センチまでに制限していました。私は一九六センチ。操縦を習うために軍隊に入ることは出来ませんでした。そこで、飛行機を操縦したいといふ夢はとりあえず棚上げしましたが、飛行機に対する私の熱い思いは冷めませんでした。旅行で乗る飛行機の種類はいつも気になつたし、座席構成のよい飛行機や装備のよい飛行機をチェックしていました。

私の人生は、子供の頃の想像とは全く違う方向に進んでいきました。私は大学を出ると、あちこち旅行しました。最初の仕事は大阪の英会話学校での英語教師の仕事をした。外国人で生活したり働いたりするのは面白かったので、アメリカに帰つて大学院に入学して、良い教師になるため勉強をしました。大学院を出るとまず中国へ行き、大学で教え、それが東北は仙台に移つて、そこでも大学で教えるました。空を飛ぶことは、遙かな夢のように思えました。日本では飛行機の操縦訓練はどうしてもお金がかかるし、グラライダーの操縦を習おうかとも思いましたが（仙台にはグラライダーレの教習所がありました）学費が高かつたし、操縦訓練を何時間も受けるような時間は、仕事のほうが忙しくなるとなくなりました。

一九八九年に仙台での職を辞して、私はアメリカへ戻りました。アメリカで私と家族の生活が安定すると、操縦訓練を受けて子供の頃の夢を実現できるかもしれない、と考えるようになりました。飛行訓練学校に入つて小型飛行機の操縦を習えるかもしれないと思つ

アトル近郊の飛行訓練学校にいくつか電話をかけましたが、費用は確かに日本での費用と比べると安いのですが、ワシントン大学の英語教師としての収入だけでは、払える金額ではありませんでした。

私は電話帳のイエローページの部分を開いて「グライダー」という項目を見つけました。しかし、問い合わせてみると、そこはちゃんととした学校ではなく、人をグライダーに乗せてお金を取るだけの会社でした。乗るだけでは意味がない。自分で操縦したいのです。電話帳に戻つて「ハンググライダー」の項目を発見。当時ハンググライダーについてよく知らなかつたのですが、操縦まで教えてくれるような感じでした。しかし、そこは、事務所はシアルトルだったので、訓練場はオレゴン州にあり、そこまでクルマで四時間で行きで四時間、帰りで四時間——今度は時間の都合がつきません。

しかし、電話帳の見出しを見ていて、すぐ下にもう一つの広告を見つけました。ノースアメリカン・パラグライディングという教習所のものでした。それまでパラグライダーなんて聞いたこともなかつたのですが、教習所の住所は私の住所から九〇分ほどで行ける町でした。そこに電話をかけてみたところ、インストラクターのマイクが出ました。彼はパラグライダーについて説明して、とりあえず週末の体験コースに入つて一度やつてみたのです。時間さえあれば、小型飛行機の免許を取つて、家族や友達を空の旅へ連れ出せるかもしれない。アメリカではいろいろな年齢の人が飛行機の免許を持つています。珍しいことではありません。当時住んでいたシカゴもまた、同じく飛行機の免許を持つています。

数週間後、私は友達とその学校に行き、初めてパラグライダー教習を受講しました。教習は装備の説明で始まり、パラグライダーがなぜ飛ぶのかを説明しました。私たちがハーネス（ベルトの着いた椅子のようなもの）を身に付け、パラグライダーの翼をハーネスに取り付けるのを、マイクは手伝ってくれました。彼は私たち生徒と一緒に走って、翼を頭の上に持ち上げておこうとする我々に、いろいろ指示しました。最後に、私たちは講習場の高台から地面まで、何度も滑空しました。足は地面から二メートルと離れていなかつたけど、楽しかった。



準備中の写真（背後のイスのようなものが「ハーネス」（本文中））

# CLOSE UP



私が初めて空を飛んだところの写真です

バーがついていて、マイクの指示を聞けるようになっています。私はヘルメットとハーネスを身に付けました。翼を注意深くハーネスに取り付け、綱の繋がり具合を確かめて、準備が出来ました。

「緊張した」なんて言葉では、あの山頂に立つて下に広がる広大な砂漠の風景を見渡したときの気持ちは、十分に言い表せません。

「準備はいいかな?」とマイクは聞きます。 「そう思うよ。」と私は答えます。

「そう思う」だけなら、まだ準備が出来ないってことだな。』とマイク。

私はもう一度すべての綱やハーネスとの接続部分がきちんととしているか確かめて、深呼吸して、「うん、準備はできたよ」といいました。

彼は落ち着いた声で説明してくれました。 「じゃあ、講習場の高台の時と同じように、飛び立つてみてくれ。翼を引き上げて走るのだよ。上手く行くさ。」

私は走つて行き、頭の上に翼が上がつてくるのが分かりました。パラグライダーは飛び

立つと意外に大きなもので、翼が空気でいっぱいになつてくると、ハーネスを引き上げ、離陸しようとするのです。私が離陸ポイントの緩やかな坂を走り降りていくと、空中に浮きました。

そこからは緩やかな斜面がすこし続きます

が、そこから数メートルで絶壁でした。山が私の後ろで小さくなつていくと、私は下を見てみました。足の下を鳥が飛んでいくのが見えます。バイクが下のほうに蟻みたいに小さく見え、六〇〇メートル下の砂地をちよろちよろと動き回っています。ここに至つて、パラグライダーとその綱は、私を空中で支える

にはあまりに貧弱なような感じがします。どうすればいいの? 空高くにいるので、自分が

のことがすごく心配になります。これは訓練の時とは違うぞ! 突然、ヘルメットの中で、

声が静かに話し掛けできました。マイクがトランシーバーで話し掛けているのです。 「私の声が聞こえたら、足を蹴りだしてみてくれ。いいかい?」

足を蹴りだします。

「オーケーだ。さて、今度はゆつくりと左旋回してもらいたい。九〇度左を向くまで、左側のブレーキを肩のところまで引きおろしてごらん。」

ブレーキをおろすと、翼が軽々と旋回します。 「上手いぞ。」とマイクは言つて、私をしばらくその方向に飛ばせておいてから、次に

「今度は右旋回をしてもらいたい。逆の方角を向くまで、右側のブレーキを引きおろしてくれ。」

といった具合で、また地面に降りてくるまで滑空は続きました。飛行時間は十五分くら

い。翼を操ることに専心していたので、飛行自体にはぜんぜん気が回つていませんでした。

夕方になつて、太陽が空を夕方の絵の具で色を塗り始めたころ、私たちはもう一度、離陸地点に立ちました。もう一度、飛ぶためです。今度は飛行そのものを楽しもうと決心していました。山の上から飛び立つと、マイクの声が聞こえます。「ジェームズ、指示は要るかい? いらぬなら、足を蹴りだしてくれ。」

私が足を蹴りだすと、マイクの声は答えて、「じゃあ、よいフライトを。」

眼下には、地平線まで延びる広大な地平がひろがり、遠くの山々は山頂が雪に覆われ、太陽はゆっくりと西の空に沈んでいきます。 こちらに温かいものを感じながら、私は言いました。「ボクは飛んでいるんだ!」子供の頃に夢見たように、とうとう帆を操ったのです。

あの日から、私はパラグライダーでもハンググライダーでも、何度もなく空を飛びました。(ハンゲグライダーの操縦は新潟で習いました。)

しかし、あの最初の飛行は忘れられません。 私の人生は、何年も前のあの帆を飛ばしていました。(ハンゲグライダーの操縦は新潟で習いました。) しかし夢は死んでいなかつたのです。夢は、私の新しい人生に合うように、形を変えただけなのです。

夢を諦めないこと。もし諦めそうになつたら、私たちが年齢を重ねるのにあわせて、夢を、私たちのその時々の人生にあった形に変えていくこと。これが大事なのだと思います。

# 新入生 CLOSE UP

## 主役になれる場所



英語英米文学科  
一年 荒井 美穂

「大学つて何をする所?」四月四日に初めて大学生として敬和キャンパスに入った私は、この間に答えられなかつたと思う。特待生として頑張ればイイのか、勉強しなきゃいけナイのか、そんなことばかり考えて敬和学園大学の入学式を迎えていた私があつたの頃一番苦労したのは、勉強よりも友達作り。全く面識のない相手と何でも話しあえる仲になるなんて考えもつかないほど、色んな顔や性格をもつた人達に直面していた頃。やつと何人かの友達ができたところで履修登録で大騒ぎ。そんな慌ただしい日々を過ごしているうちに、私は本当の大学生活というものを実感した気がした。“何をすべきか”ではなく“何をしたいのか”を求められていることに。“完璧”よりも“ソレを追求する心”をもつことに。私はハツとした。むしろ驚いた。簡単なようで難しいこと、勉強よりも難しい事が山程私の目前にあることに。私が大変だと言つた友達作りもその一つなのだろう。き

つと大学生活は、難しいと思うものにchallengeするほど、価値あるものが絶えず発見できるのだから。

そう言った意味で、皆さん聞いてください。この大学は「一人一人が主役になれる場所」なのです。誰だって脇役より主役のほうがよいでしょう? ここでは私たちが主人公となつて、四年間、それよりもこれから長い人生のstoryを作り出していくところなのだと思います。

私はこれから私だけの一度しかない人生のために、沢山遊んで、沢山人生経験を積んでみようと思います。

さあ、あなたはどうしますか?

## 大学生になつて



国際文化学科  
一年 鷺津 肇

「大学生」と聞くと、とても響きがよく、自由な感じがします。その大学生になり実感が出てきた所で、私には二つの目標ができました。

まず一つ目は、出会いを大切にすることです。出会いといつても沢山あります。大学という場所は、多くの友人をつくる最高のチャンスをもたらしてくれるところではないでしょうか。共通の悩みや学問や恋愛に対

する不安を一緒にになつて良い方向へ解決してくれる仲間を少なくとも一人はつくりたいと思います。また、学問との出会いの場でもあります。自分の興味のある分野には、妥協せずに突き進もうと考えています。さらに、先生との出会いも大学生活において不可欠なものでしょう。困ったことや質問などがあったら、○先生の所に行けば絶対に大丈夫と言いきれるような、頼りになる、すばらしい先生との出会いにも大いに期待しています。

私は人間にとって何が一番大事なのか考えました。地位や名譽や財産はどうでしょう。しかし、ややもすればそれは一夜にしてなくなってしまうものです。では、最後に残るものとは何でしょうか。それは心だと思います。大学生活を通して、この心と心のつながりのパイプが太く太くなるようにしていきたいです。

もう一つの目標は、多くの価値観に触れ、本当の自分を見つけるということです。私の考える本当の自分とは、信念を持つて答えることができる人間だと思います。この先、生きていいく上で、必ず困難にぶつかることがあります。路頭に迷うこともあるかもしれません。そうした時に、自分自身の考えがあれば、そういった困難にも対応できる力が湧いてくると思います。

しかし、本当の自分を探すのはとても難しいことなので、社会の流れや常識など身の周りからヒントを得ながら、四年間をかけてじっくり自分自身と見つめ合つていきたいと思います。

この二つの目標がクリアできるように有意義に大学生活を過ごしていきたいと思つてい

# 卒業生は今

## 卒業生からの手紙

一九九四年度卒業生 近伸之

しーんと静まり返った朝七時三十分のオレンジホール。かつて、決まってその時間、片隅のテーブルで聖書を開き、この大学のために祈っている人たちがいました。今から十年も前のことです。それは、開学と同時に生まれ、四年間だけ活動した、聖書研究会というサークルです。

私は当時学生としてそのサークルに属していましたが、卒業後、数年間の社会人生活を経て、今年から新発田の隣の豊栄市で伝道師（牧師の見習い）をしています。

私が今この職にあるのも、敬和学園大学で

得た多くの仲間・先生方との出会い、そしてこの友人たちにイエス・キリストについてもつと知つてほしいと願つた四年間の延長線上にあります。敬和がなければ私の人生のプランは全然別のものになつていたでしょう。

皆さんにとつて敬和はどんなところですか？一生つきあえる仲間のいる大学でしょうか。一生母校として誇りに思える大学でしょうか。この問い合わせる人もいれば鼻で笑う人もいるでしょう。しかし決して忘れてほしくないことは、皆さんがこの大学を選んだのではなく、神が皆さんをこの大学に招き、皆さんだけの特別な計画を用意してくれださっているということです。

私は大学を卒業する時、やりきれないでい

きました。「もう一回がんばれ」と励ましてくれているようにも思えます。皆さんひとり一人にも、神は特別な計画を用意してくれています。どうかそれを信じて、

敬和学園大学が、その神ご自身の建ててくださった大学であることに誇りと勇気をもつてください。



## ボランティアと私

一九九五年度卒業生 石木裕美

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。

私が大学を卒業してから早半年が経ちます。

二〇〇〇年三月から国際協力事業団（JICA）日系社会青年ボランティア事業に参加し、ブラジル国マリンガ市にある日系老人ホームへ派遣され二年間の活動を終了し、今年の三月に帰国致しました。

「感心ですね。ボランティアでこんな日本から遠く離れた国まで来て、お年寄りのお世話ををするなんて」と現地の方からお褒めの言葉を頂くこともありました、「海外で生活してみたい。しかもラテン系の国で。」という不純な動機によるものでした。活動に入り最初の三ヶ月程は、言葉も通

つぱいでした。四年間続けていた聖書研究会を後輩に引き継ぐことができず、中途半端に卒業していくむなしさがありました。しかしそれから数年後、私がまったく予期していないかった形で、神は私を隣町の教会に招いてくださいました。「もう一回がんばれ」と励ましてくれているようにも思えます。皆さんひとり一人にも、神は特別な計画を用意してくれています。どうかそれを信じて、

じず、周りの状況も見えず、現地の職員とどのように活動したら良いのか、自分の派遣の意味を見出せず悶々とした日々を過ごしていましたことを覚えています。

四二名の入園者と毎日日本の懐かしい歌童謡、民謡などを歌い、生まれ故郷の話を聞けるかを考えながら試行錯誤の日々を送りました。この活動を通してブラジルの老人ホームの優れた点も多く気付かされることになりました私は、「日本の技術を現地へ」という単なる「技術移転」に終始するのではなく、自分自身も成長しよう、と入園者・職員の胸を借りながら様々なことを勉強させていただきました。

今一年間の活動を終え自分の活動を振り返つてみると、入園者の大部分の方がポルトガル語をうまく話せず、ホームでの生活においても職員に伝えたいことも伝えられず自分の心の奥にしまい込んでしまったがちな状況になりました。同じ日本人として理解しあえる入園者の気持ちを代弁し、より心地よいホームになるようお手伝いできたことが、一番の思い出になっています。そして自分自身もまた、入園者・職員・地元の皆さん・家族、地域の皆さん、家族、

JICA、日本の友人など多くの方に温かく支えられ、励まされながら活動できたことを、大変光栄に思っています。



# 新任教員紹介

## 「第三の人生」



専任講師  
前嶋 和弘

はじめまして。ほぼ八年ぶりにアメリカから日本に戻り、この四月から敬和学園大学の専任講師として働いております。アメリカではずっとワシントン地区におり、ジョージタウン大学大学院政治学科で修士、メリーランド大学大学院政治学科で博士課程を修了いたしました。専攻は政治（社会コミュニケーションとアメリカ政治（メディア、議会）です。敬和では専攻に直結した「社会コミュニケーション」「アメリカ研究（英語文化圏研究）」などのクラスを担当しております。

敬和での仕事は、私にとって、「第三の人生」になりました。まず、「第一の人生」では、上智大学卒業後、中日新聞社（東京新聞）で経済部などの記者として五年ほど働きました。その後、渡米して、大学院に通うと平行して、アメリカの小さなシンクタンクで調査・研究員（肩書きは上級研究員兼チーフエディター）として、公共政策やメディアなどの調査報告を行ってきました。また、同時に翻訳者としても独立し、雑誌やニュースサイトでアメリカの社会問題などの記事の翻訳も

時間が許す中でやってきました。それが「第二の人生」。そして、現在の大学教員として教える仕事が「第三の人生」で、敬和に来る前にも出身校などで少し教えておりました。

「三つの人生」と申し上げましたが、私の心中では同じことをずっと追ってきました。それは、メディアは民主主義に本当に役立っているのか、という疑問です。大学時代に学んだ「選挙とアメリカ社会」というゼミをきっかけにしているのですが、ゼミでディスカッションを重ねる中で、その答えをさらには探したくなつて、新聞記者になり、研究員になり、翻訳者になり、そして、今日に至つております。

敬和では、今度は自分が「選挙とアメリカ社会」というゼミを担当しております。私が追いかけていこうと思っております。

の毎日です。  
私は京都で生まれ（郊外の大山崎町ですが）、そこで勉強を続けてきましたので（同志社大学、大学院で国際統合の研究をしておりました）、関西以外で暮らしたことはありません。またチユーターや非常勤講師として約一〇年間、関西の各大学で教鞭はとらせていただきましたが、常勤の教員として大きな責任を持つのは今回が初めての経験です。この初めてだらけの生活で大きな問題を抱えることなくやつていいているのは、新任教員想いの学生と素晴らしい先輩方に恵まれたおかげです。特に諸先輩教員のご努力のおかげで非常に良い教育環境ができていたのには助かりました。



専任講師  
富川 尚

## 恵まれた環境で

その中でも一番良いと思うのは、本学では学生と教師の距離が近いということです。一年次からゼミ（基礎演習）がどれ、ネイティブの教師が受け持つ少人数の語学授業が充実している上に、講義科目であつても適正人数（五〇人程度）で受講できる環境がここまで整っている所を僕は今まで見たことがありません。昨年度まで一〇〇〇人規模の講義を持たされていた私にとっては、「マスプロ教育」の弊害とは無縁で勉強できる学生を本当に羨ましく思います。

教える側に立つ私自身もこの環境を活かさない訳にはいきません。国際問題や政治に関する知識を教えるだけでなく、学生の人生を豊かにするお手伝いができるかと心から願っております。それができますのも諸先輩はじめみなさまのご支援あってのことと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げま

新潟生活が始まつて早二ヶ月近くが経ちました。想像以上に新潟の水が合い、充実した日々を過ごしております。食べ物の美味しさや自然の雄大さにも感激しておりますが、やはり一番嬉しいのは会うみんなが優しくしてくれくださることでしようか。関西から来た人間にとつては温かい新潟の県民性に感謝感謝

## 私のやっていること



教授  
若月 忠信

「文学を足で読む」これが私の方法論です。作品の舞台へ、作者のゆかりの地へ、とにかく足を運ぶ。「現地主義」などと言つたりしています。そこで体得した情感や情報が作品をとても奥ゆきのある、豊かなものにしてくれます。

先年亡くなつた中上健次が、尊敬する先輩作家坂口安吾のふるさと新潟へやつてきたことがあります。同行したのですが、護国神社境内の安吾碑のところで、安吾という作家はこの光りにあたり、この風の中で育つたんだなあとしみじみ感じ入つた様子をしていました。活字の上からだけでなく、五感を通して作家や作品を味わう至福を楽しんでいたようでした。

私も、宮本輝の「螢河」を読んで、新発田の赤谷へ螢の乱舞を見に行きました。もちろん富山の「いたち川」へも出かけました。与謝野晶子の「コクリコ」の短歌を読んでフランスのパリ校へコクリコ畑の群生の中に、声を無くしてしばらく立ちつくしていたこともあります。

ことしは、会津八一の奈良へ、また坂口安吾を直接知つている人々をたずねる旅をするつもりです。

文学をいつも私は外で読んでいます。

## わたしの初恋



教授  
加納 実紀代

あなたの初恋はいつだった？わたしは高校二年の夏。ただし相手は人間じゃない。夏休みにたまたま見た映画でカンボジアの石造遺跡、アンコール・ワットに一日惚れしちゃつたのだ。大学や専攻選びもそれで決まつた。だから卒業後は出版社に就職、結婚・出産、それから戦時女性史の研究会をつくり、その関連で何冊か本を出し……。その間カンボジアには不幸な内戦が続いた。だから実際に「恋人」に出会つたのは、一目惚れから三〇年以上も経つていた。

いやあ、すばらしかつた。これぞトゥルーラブ！以後せつせとアンコール通いをしています。

というわけで、これまでわたしの目は「南」に向いていたのですが、じつは生まれは韓国のソウル。今回新潟に来て朝鮮半島をのぞみ、先祖帰りをしたような気分です。考えてみれば「裏日本」などという失礼な呼称は明治以後のこと、それまでは大陸に近い日本海側の方が「表」だつたでしょう。おつと「日本海」はまずい。『新潟日報』に「東アジア地中海」という呼び方がでたけど、オシャレっぽくていいかもね。いずれにしろ、国境やらジェンダーやら、「どんどん越境しちゃいましょう」人間です。

## 「居心地の悪さ」の中の喜び



契約講師  
有田佳代子

佐渡への一泊バスツアー以外は足を踏み入れたことのなかつた新潟で、四月から生活が始まりました。白新線のドアの開け方がわからず西新発田駅まで行きほんやりし、土筆の群生を見て感激し、GW明けの整然と苗が植えられた田んぼにうつとりしつつも、ちょっととびっくりするほど意欲的な学生の皆さん熱意に出来る限り応えたいと思い、講義ノートをひたすらババタ作るだけ過ぎ去つて行つた数ヶ月でした。

私は現在まで、東京とベトナムのホーチミン市で外国人習学者への日本語教育に携わってきました。その中で時折うつすらと感じていたことは、日本人である自分が日本語と日本「文化」を外国人に「教える」ことへの居心地の悪さでした。たとえば、日本人と家庭を持つタイ人女性に、子どもの学校の保護者会での立ち居振舞いを伝えるときの戸惑い。ベトナム人学生に日本企業の規律正しさや効率の良さを伝え、ペトナムとはここが違うと得々と話している自分への驚き。

日々小さな国際社会に身を置く私達現場の教員は、時折このよだな「居心地の悪さ」を感じてはつとします。でも、この「居心地の悪さ」を自覚できること、そしてその本質は何かを日常の授業での学生との対話の中で、少しずつ検証していくこと。これはやはり私にとって、大きな喜びです。

## 新入生胎内 オリエンテーション顛末記 神田より子



今年の方針は新入生が充分に体を動かすこと、友達をいっぱい作ることでした。興味深かったのは、ボランティア論での遁所直樹さんによる「期待せず、あきらめず」の話でした。遁所さんは学生時代に大きめをして、電動車椅子の生活です。それでも自立生活支援センターの相談員をされたり、障害基礎年金をもらえない学生のため裁判を起こしたり、淡淡としながら活躍されています。

また今年はクラス対抗スポーツ大会を目玉にしました。本学施設係の高橋満さんが「日本綱引連盟公認審判員」なので、綱の準備から勝敗表も作成して貰いました。おかげで学生も教員も大いに盛り上がりました。優勝は久島チームで、新潟県大会にも出場できると、高橋審判員のお墨付きをいただきました。

- ・日 程 九月二十六日
- ・時 間 一四時～一七時
- ・場 所 新発田市生涯学習センター
- ・申込先 敬和学園大学企画・広報係

- （〇一五四・二六・一三九四）
- ・時 間 一九時から二〇時三〇分
- ・場 所 聖籠町公民館
- ・参 加 費 無料
- ・申込先 聖籠町公民館

10/30	10/23	10/16	10/9
【高村智恵子と新潟】	【坂口安吾の新潟】	【会津八一の奈良】	【聖籠町】
・申込先 聖籠町公民館	・場 所 聖籠町公民館	・講 師 若月忠信 教授	・時 間 一九時から二〇時三〇分

また、新潟市では、春のオープン・カレッジで実施しました「変動する世界とイスラーム」の講師が一堂に会してシンポジウムを開催します。参加無料ですので、ふるってご参加ください。

新潟にゆかりの作家をその作品の原風景とあわせて考えます。別日程での現地視察も予定しています。

「新潟が生んだ作家たち」

・講 師 若月忠信 教授

・時 間 一九時から二〇時三〇分

・場 所 聖籠町公民館

・参 加 費 無料

・申込先 聖籠町公民館

（〇一五四・二七・一一一一一）

去る四月二十六日（金）二十七日（土）に、恒例の新入生対象のオリエンテーションが行われました。今年はほぼ全ての専任教員の参加があり、天気にも恵まれ、まずまずの結果でした。

今年の方針は新入生が充分に体を動かすこと、友達をいっぱい作ることでした。興味深かったのは、ボランティア論での遁所直樹さんによる「期待せず、あきらめず」の話でした。遁所さんは学生時代に大きめをして、電動車椅子の生活です。それでも自立生活支援センターの相談員をされたり、障害基礎年金をもらえない学生のため裁判を起こしたり、

少人数で自由に討論をしながら行う対話型のオープン・カレッジです。二つのテーマを用意しております。

### ◆新発田市◆

・日 程 一〇月九日～三〇日（毎週水曜）

・講 師 ジョイ・ウイリアムズ 助教授

・時 間 一九時から二〇時三〇分

・場 所 三条市中央公民館

・参 加 費 五百円

・申込先 三条市中央公民館

（〇一五六・三三一・四八一二）

10/28	10/21	10/14	10/7
【聖籠町におけるジェンダー】	【ジェンダーで読む近代日本】	【ジェンダーと映画】	【ジェンダー論】
・講 師 穂原ヒサ子 教授	・講 師 加納泰代 教授	・講 師 山田耕太 教授	・講 師 藤井邦子 講師

## 敬和学園大学 オープン・カレッジ

◆三条市◆  
「ジェンダー」をテーマとして、それぞれの講師が自分の専門分野の視点から講義を行います。

### ◆ジエンダー論◆

・日 程 一〇月二十八日

・講 師 延原時行 教授

・時 間 一九時から二〇時三〇分

・場 所 新発田市生涯学習センター

・参 加 費 一千円

・申込先 敬和学園大学企画・広報係

（〇一五四・二六・一三九四）

・時 間 一九時から二〇時三〇分

・場 所 聖籠町公民館

・参 加 費 無料

・申込先 聖籠町公民館

（〇一五四・二七・一一一一一）

## 教師教育実践交流ワークショップ

『教育実習の新たな形を探る  
—インターンシップをいかに—』

本学では二〇〇〇年度から地域の聖籠中学校で英語の指導助手として学習支援活動を行つてきました。

これは英語の実践的指導力の向上を目的とした「年度にわたる文部科学省の「教職課程における教育内容・方法の開発研究」として委嘱研究事業に指定されました。

今年度からは、聖籠町の蓮野小学校や新潟市東中学校で英語学習のお手伝いをさせていただくななど活動の場を広げています。

このような教育現場でのインターンシップは今後の教師養成の課題であると注目され、東京学芸大学教師養成カリキュラム開発研究センターと本学との共催で下記の要領でワークショップを行う運びとなりました。

日 時  
一〇〇一年九月九日(月)九時～一六時  
会場  
聖籠町立聖籠中学校

敬和学園大学

聖籠中学校は教科センター方式や地域交流等の新しい取り組みで注目されておりますが、ここでのインターンシップの実際を議論の出発点に教師と研究者の交流を図るものであります。詳細はHPをご覧ください。

<http://www.keiwa-c.ac.jp/>

## T・Aに参加して



英語英米文学科四年  
倉嶋 絵美

四月の中旬から、週に二回、ジョイ・ワイリアムズ先生が担当している「基礎英語」のクラス、そして週に一回、聖籠中学校での英語の授業にティーチング・アシスタント(T・A)として学習支援活動に参加させていただいています。

「基礎英語」クラスでの主な活動は、八名程の一年生と共に授業に参加し、必要な時に日本語で補助説明をすることです。生徒として授業に参加するだけでなく、教員側の視点から授業を観察することで生きた英語の指導法を学んだり、実践的英語能力を身につけるためのよい機会になっています。

また、聖籠中学校での活動は、主に授業観察

が中心です。「先生」と呼ばれ、嬉しいような恥ずかしいような複雑な気持ちですが、生徒達とコミュニケーションを取りながら楽しく活動しています。

このように身をもって実際の教育現場を体験できることは、教職課程を通して教育について学んできた私にとって大変貴重な経験であり、またT・Aの大きな魅力だと思います。



能生町立能生中学校 教諭 高杉 瞳さん

## 二〇〇一年度教員採用実績

敬和学園大学に英語の教職課程が設置されて九年目となります。少人数の徹底した実践教育の成果が徐々に実を結び、今年度も多くの卒業生が教員として赴任しています。

卒業年度	氏名	採用種別	勤務校
2001	高杉 瞳	教諭	能生町立能生中学校
2001	金井亜紀子	講師(兼任)	板倉町立板倉中学校 清里村立清里中学校
2001	川口いずみ	講師	三条市立三条第一中学校
2001	小出 直子	講師(兼任)	新潟市立南浜中学校 新潟市立二葉中学校
2001	大矢 寿和	講師(兼任)	与板町立与板中学校 和島村立北辰中学校
2001	相馬さつき	講師	新発田市立川東中学校
2000	吉田 桃子	教諭	学校法人 文教高等学校
1997	丸山 雅子	教諭	下田村立下田中学校
1997	嵩岡 美雪	教諭	新潟県立有恒高等学校
1996	福本 寿世	教諭	新潟市立関屋中学校

# 敬和学園大学二〇〇一年度決算 及び二〇〇二年度当初予算

学校法人会計の計算書類は、資金収支計算書、消費取支計算書及び貸借対照表で構成されております。

今回も、企業会計の損益計算書に類似し、財務の健全性と安全性を判断できる消費取支計算書をもちい、大学部門の二〇〇一年度決算及び二〇〇二年度当初予算を報告させていただきます。

## 二〇〇一年度決算

二〇〇一年度の決算は、約四千万円の消費収入超過額となりました。これは、当該年度内の収入で全ての経費の支払を済ませ、減価償却すべき額を積み立て、その残額が四千万円になったと言うことです。俗にいう四千万円の黒字です。

予算では、約六千八百万円の消費支出超過額を見込んでおりましたので、決算の収支との差額は一億円ほどとなりました。その内容について説明させていただきます。

収入の部では、学生生徒等納付金と補助金と雑収入（主として退職交付金）が増えました。基本金組入では、新し教室に設置した機器備品の購入額が当初見積額よりも下回ったため、決算での組入額が減額しています。以上のことから、消費収入の部合計は、予算より約七千五百万円の増額となりました。

一方支出の部は、予算の未消化や経費節減などにより、予算より約三千四百万円の減額となりました。

なおこの決算は、高志監査法人の監査を受け

け、適正な処理との評価を受けています。

## 二〇〇二年度当初予算

収入の部では、学納金は一億円ほど減収になります。これは、在学生の減少に加え、今年度から新入生の特待生制度が発足したことにより、学納金の免除者を考慮したことが要因です。また、寄付金及び補助金も昨年度より大幅に減額すると見込まれます。この結果、

帰属収入合計では一億七千六百万円ほどの減収となりました。  
支出の部では、委員会等の予算申請に対し厳格な審査を行い、支出を極力抑える作業を行いましたが、当年度消費支出超過額は一億四百万円となりました。  
このように收支の結果は厳しいものとなりましたが、予算を実施する上で、支出内容の見直しを徹底し、従来どおり教育研究の充実、学生サービスの向上につとめたいと考えております。

（総務課長 長澤雄介）

## 2001年度消費取支計算書及び2002年度同予算書

(収入の部)

科 目	2001年度予算額	2001年度決算額	2002年度予算額
学生生徒等納付金	741,495,000	761,032,500	657,235,000
手 数 料	11,338,000	10,737,260	9,968,000
寄 付 金	48,374,000	34,999,601	18,174,000
補 助 金	101,122,000	136,442,940	101,539,000
資 産 運 用 収 入	9,178,000	10,822,436	7,178,000
事 業 収 入	150,000	1,666,640	1,050,000
雑 収 入	4,962,000	16,565,323	639,000
帰 属 収 入 合 計	916,619,000	972,266,700	795,783,000
基 本 金 組 入 額	△ 84,718,000	△ 65,522,024	△ 62,061,000
消 費 収 入 の 部 合 計	831,901,000	906,744,676	733,722,000

(単位：円)

(支出の部)

科 目	2001年度予算額	2001年度決算額	2002年度予算額
人 件 費	539,035,000	538,782,681	506,059,000
教 育 研 経 費	251,990,000	236,475,135	237,599,000
管 理 経 費	83,221,000	72,368,807	70,206,000
借 入 金 等 利 息	15,782,000	15,780,480	14,773,000
資 産 处 分 差 額	0	2,780,790	0
予 備 費	10,000,000	0	10,000,000
消 費 支 出 の 部 合 計	900,028,000	866,187,893	838,637,000
当 年 度 消 費 収 入 超 過 額		40,556,783	
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	68,127,000		△ 104,915,000
前 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	951,595,390	951,595,390	992,152,173
翌 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	883,468,390	992,152,173	887,237,173

(単位：円)

# 二〇〇一年度後援会総会

二〇〇二年度敬和学園大学後援会総会が、四月三日の入学式後、新入生保護者を中心にして百九名が出席し開催されました。

顧問の学校法人敬和学園理事長後宮俊夫先生、大学長北垣宗治先生の挨拶の後、二〇〇一年度決算、二〇〇二年度事業計画及び予算が審議され、満場一致で承認されました。また卒業のため、会長他役員が表のとおり改選されました。

後援会は在学生保護者で組織し、会の運営は会費で賄われています。サークル活動、就職活動、学園祭及び学生用駐車場の確保等、いろいろな事業に補助をしております。大学の唯一の広報誌である本カレッジ・レポートの印刷費及び郵送費も全額負担しております。今後ともご協力をお願いいたします。

会長 小林眞一

## 収入の部

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算
後援会費	28,500,000	29,700,000	22,330,000
寄付金	1,000	1,000	1,000
雑収入	50,000	45,850	30,000
繰越金	16,051,708	16,051,708	27,050,227
合 計	44,602,708	45,807,558	49,411,227

## 支出の部

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算
事業活動費	3,000,000	1,840,928	3,000,000
会議費	250,000	166,281	200,000
事務費	50,000	299	50,000
通信費	1,700,000	1,586,991	1,800,000
印刷製本費	1,800,000	1,681,259	1,900,000
手数料	20,000	14,105	20,000
学生クラブ補助費	3,800,000	3,000,000	3,500,000
アネックス維持管理補助費	700,000	700,000	700,000
学園祭補助費	2,000,000	1,950,000	2,500,000
教職員活動補助費	300,000	0	300,000
施設、設備、備品補助費	8,340,000	7,335,750	12,500,000
大学10周年記念助成金	17,000,000	0	17,000,000
旅費交通費	100,000	41,860	100,000
雜費	542,708	439,858	841,227
予備費	5,000,000	0	5,000,000
次年度繰越	0	27,050,227	0
合 計	44,602,708	45,807,558	49,411,227

役職	氏 名	住 所	電話番号	職 業	備考
会長	小林 真一 10回生保護者	957-0051 新発田市城北町2-6-28	(0254) 22-4562	下越障害福祉事務組合 知的障害児施設 いじみの学園園長	
副会長	津野 奈津雄 10回生保護者	957-0081 新発田市大字上中沢334	(0254) 27-2374	豊浦郵便局	
副会長	若槻 好子 9回生保護者	950-0836 新潟市東中野山5-7-15	(025) 277-5045	会 社 員	
理事	酒井 美峰子 11回生保護者	950-0122 亀田町稻葉1-4-34	(025) 381-7511	主 婦	
理事	倉嶋 新悦 12回生保護者	957-0347 新発田市大友91	(0254) 25-3294	新発田市役所	新任
監事	大井 重明 12回生保護者	950-2111 新潟市大学南2-12-20	(025) 263-2779	公 務 員	新任
監事	横山 博子 12回生保護者	957-0347 新発田市御幸町1-82	(0254) 23-2316	有ダスキンあやめ 代表取締役社長	新任

顧問：後宮 俊夫 敬和学園理事長  
北垣 宗治 敬和学園大学長

これまで本学の広報は、予算規模の大きさ順に入試委員会、広報委員会、就職委員会、キリスト教と教育委員会等、いくつもの委員会に別れて、それぞれ異なる分野を対象として広報を行ってきました。従って、これらを統括するセクションは、教員組織及び職員組織いずれにもなかつたことで、統一性が保たれていませんでした。

また、広報委員会が所管する各地のオーブン・カレッジ、年四回発行するカレッジ・レポート、毎日更新する大学のホームページ・ページ等、その所管する業務が年々多くなっています。

更に、大学運営がますます難しくなるに従い、新しい企画、例えば、新学科の設置、生涯教育関係講座のさらなる充実、広報活動の効率化等、検討しなければならない重要な事項が多くなっています。

そこで、五月一日付けて総務課の中にこれらを統括する「企画・広報係」を設置し、そこに教務係員だった小端康弘を主任として配置しました。

この係は、他にも人文社会科学研究所及びKCOP委員会の所管も担当します。今後大学では新しい企画、新しい広報を積極的に進めてまいります。読者の皆様も斬新なアイディアをお寄せください。

(総務課長：長澤)

事務局の総務課に  
企画・広報係設置

# 就職指導室長就任

## ご挨拶と自己紹介



就職指導室長

### 宮川 洋

して以来、二度目の赴任となります。敬和学園大学の周辺は見渡す限り田園で、遠くには、加治川の桜並木がみえたものです。これまでとは異なる職場で、緊張の毎日ですが、本学教職員の和やかな雰囲気、それに学生の率直さに感激し、風通しの良い職場で安心しております。

就職活動の基本は、四十年前と同じと意を強くいたしました。厳しい就職戦線に勝つには、早期からの準備、業界動向、企業研究、自己分析の徹底、最後はマンツーマンでの面接訓練により

はじめまして、四月より敬和学園大学の就職指導室長の職を拝命いたしました。宮川です。どうぞよろしくお願ひいたします。

敬和学園大学に来る前は、第四銀行に三十八年間（その間二社出向）勤務し、転勤のついで回る銀行業界に在勤し、転勤を十五回も経験してまいりました。

本部の検査部勤務時、臨店検査で県北は岩船支店から、県南は青海支店と県内一円全支店を検査して参りましたので、各地の風土、歴史、企業等を勉強してきました。銀行業界、石油業界は、規制緩和の進展と共に、これまでは異なる全く新しい競争の時代に入っています。

新発田には三十七年前、新発田支店に勤務



就職指導室の様子

## 学事予告

### ◆七月◆

- 二日 新発田市オープンカレッジ⑥  
敬和ボランティア・ディ

聖龍町オープンカレッジ

農菜市オープンカレッジ③

- 九日 新発田市オープンカレッジ⑦  
聖龍町オープンカレッジ

農菜市オープンカレッジ④

- 十日 豊菜市オープンカレッジ⑤  
前期講義終了

- 十七日 豊菜市オープンカレッジ⑥  
前期講義終了

- 二十三日 豊菜市オープンカレッジ⑦  
前期末試験（～八月三日）

- 二十四日 豊菜市オープンカレッジ⑧  
後期講義開始

- 二十六日 前期卒業式（～二十一日）

- 二十九日 学生リトリート（～二十一日）

- 三十日 履修指導日

- 二十六日 後期講義開始

- 二十八日 人文社会科学研究所シンポジウム

## 寄付者ご芳名

一般  
一九九一年組  
一九九二年組  
一九九四年組  
一九九六年組  
一九九七年組  
一九九八年組

北垣 宗治、星 ミヨ子  
皆川 靖、近 伸之  
上田 幸信、佐藤 浩雄  
千葉 俊志

長谷川 政和、本多 大峰  
南暁子、高見 政光  
長谷川 光、五十嵐 亜希  
木津 有紀子、齊藤 和徳

# オープンキャンパス

本学の魅力体感の場！

7月20日(祝)

日本語は面白い：英語の話し手からみた日本語のフジギ	教授 James B. Brown
表現する楽しさ：ことばのリズムからシェイクスピアまで	助教授 金山 愛子
日本とアジア：仲良くなるための秘訣は何？	助教授 松本 ますみ
平和主義の原点と個人の尊重：日本国憲法前文の意味するもの	助教授 福王 守
友達は人類を救う！？注目される『人間関係』資本	専任講師 前嶋 和弘
英語は生きている：ハート・トゥ・ハートのコミュニケーション	契約講師 Mary Hughes Conrad Matsumoto

9月21日(土)

日本最初の女子留学生：明治政府の偉い点と抜けていた点	学長 北垣 宗治
ヘミングウェイのある短編を読み解く：生と死をめぐって	教授 北嶋 藤郷
愛の力：ミュージカル『ウェストサイド・物語』の魅力	教授 Allan Blondé
教職課程発表	教授 柴沼 昭子
仏教とキリスト教の対話：21世紀を動かすコミュニケーション	教授 延原 時行
実感！異文化体験：異文化の向こうに見えるもの	教授 神田 より子
新しい外国语にチャレンジ！：ドイツ語を話してみよう	教授 桑原 ヒサ子
小説を足で読むこと：菊池寛『仇討ち三態』を素材に	教授 若月 忠信
ポップスから学ぶ英語：実践的な英語獲得のヒント	助教授 C. Joy Williams
英会話の部屋	助教授 C. Joy Williams 契約講師 Mark Frank
経済成長の巧罪：身近な環境問題が訴えかけること	助教授 房 文慧
市民社会と法：ひとりひとりが尊重される社会をめざして	助教授 福王 守

※お申込み・お問い合わせは……入試室（0120-26-3637）迄

本学では、七月二十日（祝）と九月二十一日（土）に、オープンキャンパスを実施します。体験授業やサークル活動の紹介、キャンバスツアー等のプログラムが用意され、本学の魅力を体感していただけること請け合いであります。また、個別相談や模擬面接の場が設けられ、二〇〇三年度入試の詳しい情報を直接入手することができます。

オープンキャンパスでは左記の体験授業が行われます。一人一人の先生、一つ一つの授業が本学の誇る最大の宝です。本学で学ぶことの楽しさを感じるとともに味わってください。本学に興味を抱く高校生はもちろんのこと、知的刺激を求めて一般社会の方々のご参加も広く募集いたします。

敬和学園大学は、志願者の様々な能力を評価するために、二〇〇三年度も多種多様な試験を提供します。それぞれの試験の概要をここに紹介します。詳しい内容につきましては入試室（〇一二〇・二六・三五三七）までお気軽にお問い合わせ下さい。

## ◆AO入試◆

志願者は、本学教員との面談を二回行い、対話を重ねることにより、本学の教育内容を知り、自分の適性を伸ばしていくかを確認します。お互いがお互いを理解しあった上で入学が決定します。

## ◆一般入試◆

「A日程」と「B日程」と「センター試験利用」の計四種類の試験があり、一月から三月にかけて実施されます。

「A日程」では、英語・国語・科目の筆記試験、「B日程」では、英語・国語いずれか一科目の筆記試験が課されます。「C日程」は「課題面接型」で、志願者はあらかじめ課題を与えられ、自分の考えを整理した上で面接に臨みます。

「センター試験利用」は、英語と他一科目（国語、地理歴史、公民の中から選択）の受験が必要です。本学独自の二次試験は行いません。なお、「センター試験利用」の成績上位者には奨学金給付制度が設けられています。

## ◆推薦入試◆

「指定校推薦」と「一般推薦」があります。「指定校推薦」は、本学の指定校枠がある高校で選抜することが必要です。「専願」扱いで、面接のみの試験となります。「一般推薦」は、他大学との「併願」が可能で、試験では面接と小論文が課されます。

「特待生特別選抜制度」が「指定校推薦」の枠内に設けられています。特待生（定員各学科五名）には、最長で四年間の授業料全額免除の特典が与えられます。

## ◆その他の試験◆

「編入学」「帰国子女」「社会人」「外国人留学生」が実施されます。「外国人留学生」は「特別選抜制度」が用意されています。

# 二〇〇二年度入試のご案内

# FROM CAMPUS

## キャンパス日誌

### 4月

- 1日 学年始め  
辞令交付
- 3日 入学式（写真）  
保護者ガイダンス  
大学後援会総会・役員会
- 4日 履修登録・学生生活  
ガイダンス（～5日）  
プレイスメント・テスト  
健康診断（～5日）
- 8日 新入生歓迎公開学術講演会  
講演 新井 明 日本女子大学名誉教授  
「北越のともしび」
- 10日 前期講義開始  
教授会
- 12日 チャペル・アッセンブリー・アワー①  
説教 北垣宗治 学長 「敬和学園の伝統」
- 17日 チャペル・アッセンブリー・アワー②  
説教 上島一高 日本基督教団新潟教会牧師  
「チャレンジを受けるキリスト教・  
チャレンジするキリスト教」
- 26日 新入生オリエンテーション（～27日）  
於：胎内パークホテル（黒川村）



### 5月

- 1日 教授会
- 10日 チャペル・アッセンブリー・アワー③  
説教 延原時行 宗教部長  
「いと小さき者のために」  
講演 大谷貴子  
全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長  
「いのち みつめて」  
学園常務委員会
- 17日 チャペル・アッセンブリー・アワー④  
説教 矢嶋直規 助教授 「神の国と神の義」  
講演 富川尚 専任講師  
「理想を現実に変えた力  
～ヨーロッパ統合とジャン・モネの発想～」  
前嶋和弘 専任講師  
「あなたは選挙に行きますか？～注目される  
人間関係資本（social capital）の概念～」
- 22日 教授会
- 23日 Inter-University学術講演会  
講師 ジョン・B・カブ  
クレアモント大学院名誉教授  
「持続可能な社会」（写真）
- 24日 チャペル・アッセンブリー・  
アワー⑤  
講師 ジョン・B・カブ  
クレアモント大学院名誉教授  
「ペンテコステと宗教間対話」



- 28日 新発田市オープン・カレッジ①  
『変動する世界とイスラーム』  
講師 松本耿郎 英知大学大学院教授  
「イスラム教とは」（写真）
- 29日 教授会
- 31日 チャペル・アッセンブリー・  
アワー⑥  
説教 上林順一郎 日本基督教団  
早稻田教会牧師  
「失ったものから見えてくるもの」  
学園理事会・評議員会



### 6月

- 4日 新発田市オープン・カレッジ②  
講師 遠藤晴男 中東研究家  
「アラビア半島とどう付き合うか」
- 6日 聖籠町オープン・カレッジ1  
「歩いて動いて健康作り その2」①/4  
講師 久島公夫 教授
- 7日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑦  
説教 延原時行 宗教部長 「良寛とパウロ」  
講演 荒井 魏 人文社会科学研究所 客員研究員  
「良寛と私」
- 8日 スポーツ大会（写真）
- 11日 新発田市オープン・カレッジ③  
講師 延原時行 教授  
「文明間対話」
- 12日 後援会役員会  
教授会
- 13日 聖籠町オープン・カレッジ②/4
- 14日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑧  
説教 宇田川潔 事務局長  
「最も小さきものにしたこと」  
講演 香港キャンバスクルセード 「讃美と対話」
- 18日 新発田市オープン・カレッジ④  
講師 前嶋和弘 専任講師  
「9.11以降のアメリカのイスラーム認識」
- 19日 豊栄市オープン・カレッジ『教養講座』①  
講師 山崎ハコネ ボランティア・コーディネーター  
「老いを生かす環境作り」
- 20日 聖籠町オープン・カレッジ③/4
- 21日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑨  
説教 中村正重 本学非常勤講師  
講演 「アメリカの魅力～アメリカで働き暮らした体験から」
- 25日 新発田市オープン・カレッジ⑤  
講師 松本ますみ 助教授  
映画「カンダハール」上映
- 26日 豊栄市オープン・カレッジ②  
講師 岩倉依子 助教授  
「中世ヨーロッパの往生術」
- 27日 聖籠町オープン・カレッジ④/4
- 28日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩  
説教 倉橋康夫 富士見町教会牧師  
講演 「人間—その神秘」

